



創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

埼玉浮き城プロバスクラブ

2021,7,16 発行
No. 121

例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安眞也方) TEL・FAX 048-521-3359
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 眞也 情報委員長 椎橋 俊夫

本日のプログラム

第122回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱(プロバス賛歌)

会長挨拶 会長 根岸 友憲

定時総会

令和2年度事業報告・収支決算報告 前会長 須郷 隆

監査報告 監事 小山 博

令和3年度事業計画(案)・収支予算(案) 会長 根岸 友憲

幹事報告 幹事 岡安 眞也

委員会報告・同好会報告

パースディ報告と会員スピーチ 木村忠夫会員他3名

卓話「会長に就任して」 会長 根岸 友憲

ハッピーボックス披露 例会委員

閉会 例会副委員長

<第121回例会出席率 会員 34・出席 28・出席率 80%>

第121回(6月18日) 通常例会

■幹事報告 副会長 木島 隆夫

1, 7月より誕生祝い品が変わります。どうぞご期

待下さい。

2, 休会期間中の会費を月額千円とする方向で考えております。7月理事会に於いて議案検討したいと存じます。

3, 木村忠夫会員「巨樹 1000 本達成記念 CD」を次回例会で配布予定です。

お祝い
6月誕生日
を迎えられ
た会員



関根 政会員は欠
席しました

石塚 喜助会員 木島 隆夫会員

会長スピーチ

会長 根岸 友憲



皆様こんにちは 今年度会長を務めさせて頂く根岸友憲です。これから一年間皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。本年度は本来ならば鈴木民儀会員が会長として決まっておりましたが、思いもよらず長期の入院治療が必要になったため急遽会長職に就任することに相成りました。鈴木民儀様の早期の回復をお祈り申し上げます。

ピンチヒッターとして会長職に就任することに相成りましたが、野球でいえば代打は勝敗を左右する大事な場面で登場することが多いのだからといって、皆様に激励されましたけれど私としては三振してしまうのではないかと不安でしかたありません。どうぞよろしくお願い致します。

近年は新型コロナウイルスの世界的な流行いわゆるパンデミックにより社会構造そのものが変化を余儀なくされ始めました。ワクチンが開発され日本でもワクチン接種の対策により多少感染リスクに明るい兆しが見えてきましたが、まだまだ気の抜けない状況が続いております。

また七月の下旬からオリンピック、パラリンピックの開催が現実的になり、このことが吉と出るか凶と出るかで日本経済の先行きが決まる大事

な一年になるではないでしょうか。現時点では先の見えない不安な社会情勢ではありますが、共に楽しい例会を続けてゆけるよう尽力して行きたいと思っております。

今年度の方針の一つであります会員の親睦をはかる方法として卓話をできる限り会員の方にお願ひし懇親をより一層深ていき、鴨田年度で承認されましたクラブ協議会を開き、明るく楽しく気品のあるクラブ運営を目指して頑張っていきたいと思ひます。話が苦手でありますのでまとまりませんができる限り年度計画に沿った運営を目指してまいります。



ハッピーボックス発表

◎1年間皆様の温かいご支援とご協力を頂きましたことに心より厚く御礼申し上げます。ワクチン接種も順調に行われています。皆様の益々のご健勝を祈っております。有り難うございました。(須郷)◎庭の梅の木も今年は豊作でした。近所や親戚に配り、遠くの友人が脚立を持参して取りにきました。お陰様で、ほゞ綺麗になりましたが、上の方には、依然とし沢山残っております。朝夕の落ちた完熟梅の掃除が大変です。(木島)◎須郷会長、木島副会長兼事務局長、お疲れ様でした。種々な行事が中止の中で、小規模ながら記念式典実施に勇気と決断、心より敬意を表します。これからのご指導宜しくお願い申し上げます。(小山・畠山・宮根・野原・小川・清水)◎須郷年度最後の例会、会長はじめ皆様には大変お世話になりました。小島先生の卓話楽しみにしています。(山本・保泉・岡安・山田)◎サツキ盆栽花後の剪定が終わりました。ハサミの音でストレスも吹き飛びます。(木村)◎国と国が争うと戦争になります。目に見えない新型コロナとの戦い。安全保障とは何かを問われます。一日も早い収束を祈ります。(武笠)◎コロナ・オリンピックと世間は騒がしいが、老人にとっては、あと何年この世に居ることが出来るかの方に心が向いてしまいます。

プロバスのお陰で寿命も延びて居ます。有り難いことです。(高橋)◎コロナ・ワクチン・オリパラいよいよ最終段階に入りました。五輪のファンファーレ、生きていて良かった。(小島)◎ワクチン接種が始まりました。一日も早くコロナの終息が望まれます。そして遠慮無く皆様とふれ合える世の中になって欲しいものです。(大澤・鴨田・加藤・藤倉・柿沼)◎文字通り10周年おめでとうございます。本日新入会員森田義弘さんのオリエンテーションをさせて頂きました。うれしくなりました。(渡邊)◎森田義弘様プロバスケットボール入会おめでとうございます。これからはクラブ活動を楽しみましょう。宜しくお願いいたします。(根岸・田口)◎91歳の誕生日を迎えて(石塚)◎本日小島先生のお声がけで当会に入会致しました。渡邊・畠山両氏との面談有難うございました。宜しくお願い致します。(森田)◎私の住んでいる小山市渡良瀬遊水池でコウノトリ「ひかる」「レイ」ペアのヒナ2羽「りょう」(オス)と「のぞみ」(メス)が6月3日(木)10:26分と11:40分に無事巣立ち(60日目)しました。これから見守って行きたいと思います。ハッピーな気持ちになりました。(岩崎)

文責 岩崎安裕



第121回 創立記念例会卓話

世界一人旅が与えてくれたもの

小島 敏男

10周年記念例会の卓話を指名されたが、須郷・木島年度の最終例会の為「コロナ禍で得たもの」と仮の題を出しておいた。しかし、妻曰く、皆さんが同じく感じていることなのであなた自身しか経験したことのない事の方が・・・と言われ急遽若かりし頃海外一人旅をした体験を披露することにした。若さ故の行動であり、無鉄砲さも手伝って突き進んだ旅であったがその後の人生にプラスに働いたことは事実である。字数制限で全て報告出来ないの、詳しくは10周年記念誌の自由題として提出しておいた。

1971年(昭和46年)市議会議員になって以来長い間政治を続けられてこれらに原動力はどこにあったのだろうか。コロナ禍でステイホームを強いられ、自分と向き合う時間が増えてきた今じっくりと考えることが出来た。

学生時代から日本史や世界史に興味津々だったので、いつの日か世界の国々をこの目で確かめてみたいのが長年の夢であった。市議会議員2年目に入り、3月と6月の定例議会の間の2ヶ月余という短い期間だったが、世界一周の一人旅に出掛けるチャンスに恵まれた。当時はJTBも近畿ツーリストも世界中にネットワークがなく、知人が務めていたアメリカンエクスプレスを利用しての心細い企画だった。

羽田空港での笑顔に満ちた見送りを背に、第一歩のハワイから旅が始まった。アメリカは、ハワイ、ロスアンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ、ワシントン、ニューヨークの各都市だ。そして行く先々の体

験が、その後の人生に大きなインパクトを与えると当時思ってもみなかった。意気揚々と出発したが、ハワイで英語力のなさに大きなショックを受けた。

だが引き返す選択肢はなかった。各都市はさすがに世界一を誇るに十分なエネルギーが満ち溢れ、全てが「ビッグ」なものにも驚かされた。中でも湖といえは琵琶湖、十和田湖しか見たことがなかったが、五大湖(スペリオル、ミシガン、ヒューロン、エリー、オンタリオ)の大きさにビックリ。何隻もの大型船が行き交い、湖水浴を楽しんでいる人の群れだった。面積を調べてみると、日本列島(378,000km²)に対し6割を超える(244,000km²)広さを有しており、巨大な国アメリカを象徴しているようだ。ニューヨークのケネディ空港にしても羽田空港の14倍の広さがあるといわれ、果てしなく続く彼方が見えた。

ニューヨークは空港からのシャトルバスで街のど真ん中が終点だった。林立する高層ビルを見上げた一瞬だったが下を見たら荷物が無い。すると荷物は黒人と共に動いている。慌てて追いかけるとタクシー乗り場まで運んでくれたことが分かった。すると「ハーフダラー」と手を出したので1ドル紙幣を渡すとニコリ「サンキュー」と立ち去った。これがアメリカなのだ。各都市とも短い滞在期間だったが特色ある場所は走り回った。何にも増して無事ヨーロッパに渡れたのはラッキーだったと思う。

ヨーロッパ編は、イギリス(ロンドン)を皮切りにオランダ(アムステルダム)、ベルギー(ブリュッセル)、ドイツ(ミュンヘン)、スイス(ジュネーブ)、フランス(パリ)、イタリア(ローマ、ナポリ、ポンペイ)を回った。現在のようにユーロのない時代なのでその都度の通貨の両替に苦労した。ポンド、フラン、マルク、リラ・・・移動中の機内で頭を切り替えることが出来たのは若さ故、今の自分では到底不可能だ。言語が、そして歴史、文化、憲法、皆それぞれ

の国の長い歴史の中に作られたものだ。助かったのは当時英語を話せる人も少なかったので、お互いゆっくり会話が出来た。ドイツのライン下りでは、タクシーの運転手が英語を話せず10人ほどの人が集まってきてくれ、お陰でマインツの乗り場まで時間ギリギリで着くことが出来た。

ロンドンの大英博物館、ドイツの古城巡り、イタリアの歴史建造物回り、ポンペイの古代都市発掘見学、一度行ってみたい場所を決めて歩き回った。イタリアからオリンピック発祥の地ギリシャのアテネに渡った。有名なパルテノン宮殿は、昼間も訪れたがライトアップされた夜景も素晴らしかった。ローマ字読みで「TEVERNA」(タベルナ)と書れているのが食堂で、地中海の海の幸「牡蠣」の大盛は最高だった。

次に訪れたのは現在のパレスチナのガザ地区と緊張関係にあるイスラエル。有名な祈りの壁にも行った。日本人には理解しがたい宗教的問題で、まさに解決するのに厚い壁が立ちはだかっているようだ。

最終地を選んだのはインド。帰国後、また行ってみたい場所は？と聞かれた時の答えは「インド」だ。理由は簡単で、常識の外に置かれた地だったからだ。泊ったのはアシオカホテルという当時ニューデリーでは最も信頼の高いホテルだった。ホテルから街に出ると赤ん坊を抱いた女の子が手を出してきた。気の毒に思い少しお金をあげると、近くで様子を見ていた子供たちが一斉に飛び出してきた。恐ろしくなり一目散でホテルに逃げ帰った。アーグラにある世界遺産タージ・マハルは最も行ってみたい場所だったのでホテルの観光案内に申し込んだ。古いアメ車にコーラを積み込んでスタート。当時は砂利道だったが車が少ないので助かった。途中のドライブインは不衛生で、ガチャポンの井戸の前で行列が出来ていた。帰路、とっぷりと日が暮れて荒野は月明かりだけだったが、突然車が故障してしまった。この旅で一番心細かったのはこの時だった。もしかすると・・・が頭をよぎった瞬間でもあった。20分くらいしてようやく直ったのでホッとしたのだが、一流ホテルの観光案内の申込みが幸いしたのだとつくづく思った。

帰国後、6月の定例市議会で早速外国での体験を話し、一般質問で姉妹都市提携をすべきと訴えた。市長は、万一事故が起きたら対応が難しいとのことで前向きな答弁を得ることはできなかった。

結論として多くのことを経験したが、政治の道に入った時に両親に言われた言葉が身に染みている。母曰く(人様に後ろ指を指されるようなことはしないでほしい)父曰く(頼るは自己の力のみ)父親は川島町の出で10人兄弟の末っ子に生まれ、早くに両親が亡くなり長男に育てられたと聞いている。明治生まれの苦労人の一言だった。

以来、県議、衆議院議員と39年の政治の道は、山あり谷ありの人生だった。両親兄弟をはじめ、多くの人たちに支えられての歩みだったが、70歳になって無事プロバスクラブに着地できたことは最高の喜びである。これからもよろしくお願いします。



第120回 例会卓話

ポーラとの出会い

柿沼孝枝

本日は卓話の時間を頂き有難うございます。何を話したらいいのか、あれこれ迷いました。そんな時、ここまで生きてきた人生を振り返ってみると、私の人生において道を開き方向づけてくれたのは、多くの出会いではなかったかと云う思いに至り、話のテーマを絞ることができました。

私は昭和36年3月行田女子高等学校を卒業し、4月より(株)石川島播磨重工業(IHI)に入社し、豊洲総合事務所の総務課に在籍、社員としての勤務が始

まりました。それと同時に、高校時代から部活動で打ち込んできたバドミントンクラブが、IHIにもあり、直ぐに入部して活動が始まりました。毎日のクラブ活動の中で、私にとって大切な阿部茂さんとの出会いがありました。クラブ活動の中で、阿部さんの人間性の豊かさや、生き方に共感する点が多く、人生の伴侶として心に決し、3年後思いが叶って結婚し、行田市に戻りました。

行田に基盤を置いてから、主人(阿部茂)はホンダ自動車販売会社に勤務。関東上信越では優秀な業務成績を残しましたが退社し独立しました。その頃、行田市にもバドミントンクラブが発足し、そちらの方にも関わって行きました。私が27歳の10月頃、肌の悩みが気になっていた時、主人のすすめでポーラ化粧品と出会い、2ヶ月ほどで悩んでいた肌の変化に気付く、興味を持つようになりました。これが

(4) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

「Pola」との出会いの切っ掛けでした。ちょっとした好奇心に背中を押され、「私にでもできますか」とポーラ東行田営業所に伺い、登録され、当面必要な教育を受け、私の訪問活動がスタートしました。

自信のないまま、一軒目のチャイムを押す、思わぬ展開で話が進み、気付くとクリームの販売に成功しており、びっくりして営業所に戻りそのことを報告、初めてのお客様に感謝すると同時に、責任を強く感じました。幸いにも販売に関する指導者(主人)が身近に居りましたので、顧客の管理等の慣れない仕事については適切に指導を受けました。これは私にとって大きな前進になりました。訪問販売が得意でない私は、その後職域販売、デモなどを中心に活動し、市役所、学校、会社など無理をせず好きな職場へ伺う事に専念しました。その間お客様から学ぶことが多く次のステップへの力となりました。後から振り返ってみると、どんな出会いにも前向きに接する事により、自らを充実させ前進させる力となることを強く感じました。

家庭と仕事とのバランスも良く、充実した生活をしていました。31歳で独立、ポーラ桜町営業所を開設し、私の夢である高品質にふさわしい人材の育成と、志の高い組織づくりに励みました。その後、

夢の実現のためと生きがいのある毎日を送ることに邁進して今日に至っております。

長かった人生も今になって振り返ってみると、どの出会いも出来事も、一里塚のように私の人生にしろしを残しておりますが、特にポーラとの出会いは私に数々の体験と宝物(大きな家族)をプレゼントしてくれました。それは私の生き甲斐となっております。

在籍期間—51年、店舗数—32P。出逢った多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

有難うございました。

—終り



会 員 投 稿



プラごみ減らしきれない地球を

岩 崎 安 裕

プラスチックごみによる環境汚染を防ぐため全国自治体も2019年度からゼロ宣言の取り組みを実施している。

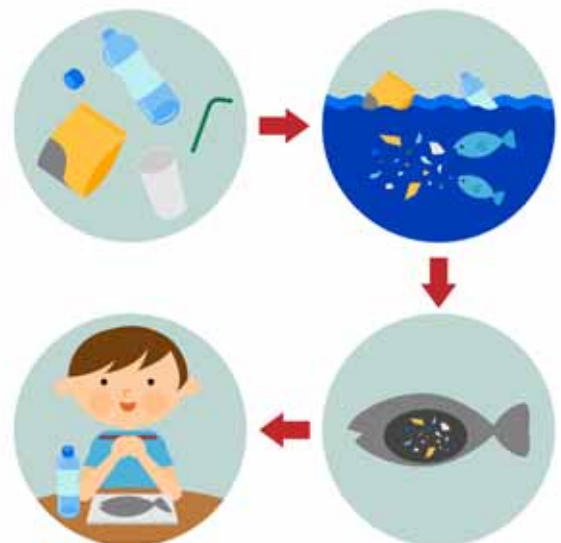
ペットボトルやレジ袋、ストローなどのプラごみは、海洋生物の生態系への影響が世界的に問題となっている。不要な使い捨てプラスチックの使用削減(レジ袋やマイボトルを持参しプラスチックごみ出さない。)や再生材利用促進、リサイクルの適正処理の徹底や個人や企業、団体、行政など主体ごとの取り組みが重要である。

プラスチックの消費社会となっている昨今、放置したままのプラスチックが海に流れ込み紫外線などで細分化されマイクロプラスチックになり、これが食物連鎖によって、私達の体内に取り込まれる。プラスチックは土に返らないし、燃やせば有害ガスが発生する。一方日本の取り組みは遅れているように感じる。

私達に出来る事は、3R(リデュース、リユース、リサイクル)のはかりシンク(必要を考える)、リフューズ(不必要なものを判断する)、リファイン(分別する)のプラス3Rを意識することから心がけるこ

とでしょう。企業に再生材や紙など再生可能資源への代替え促進を求める。行政には庁舎内での分別回収などを徹底してもらう。

胸を張って綺麗な地球を子供達に残していけるよう一人一人が心がけて行くことが大切です。埼玉浮き城プロバスクラブ会員の皆様も、出来ることから取り組んでいきましょう



次回例会案内 8月20日(金)第123回通常例会 卓 話「元駐在の台湾から見たG7サミット」 岡安 眞也幹事

埼玉浮き城プロバスクラブ ブログ 第121回創立記念例会 会報No.120 更新しました。